

《活動実践報告》

## 第4回 学生主体キャリアイベント実践報告

——「Career & Talk キャリトーク～公務員編～」——

渡邊 洋子（新潟大学） 山本 芽依（新潟大学学生） 湯澤 陸（新潟大学学生）  
布施 英梨花（新潟大学学生） 畠中 海斗（新潟大学学生） 堀籠 崇（新潟大学）

本稿は、新潟大学創生学部の学生有志が企画・運営し、キャリア創生研究会の教員有志がバックアップする方式で開催された第4回学生主体キャリアイベントの実践報告である。今回は、学生の希望により新潟市の技術職の女性職員と民間での勤務経験のある男性職員のお二人をお迎えしたイベントであった。本稿では、イベントの概要と成果について、文字おこし原稿やアンケート調査をもとに報告する。

キーワード：キャリアデザイン（活動）、学生主体イベント、公務員

### 1 はじめに

本稿は、新潟大学創生学部の学生有志（学生キャリア研究会）が企画・運営し、教員有志のキャリア創生研究会がバックアップする方式で開催された第4回学生主体キャリアイベントの実践報告である。今回は、学生の希望により新潟市の技術職の女性職員と民間での勤務経験のある男性職員のお二人をお迎えしてのイベントとなった。以下、学生キャリア研究会の事前準備から開催当日、開催後のアンケート結果の振り返りなどを含めた同イベントの実践報告である。

運営スタッフは、2019年12月にキャリア創生研究会の教員（堀籠・渡邊）が創生学部の一斉授業で趣旨説明して呼びかけ、SNS等で募集した。応募した以下の7人がスタッフとなり、自治的に企画運営を行った（\*はメインメンバー）。

2年：山本芽依\* 湯澤陸\* 前澤優花 奥村夏子

1年：青木悠飛 畠中海斗\* 布施英梨花\*

また教員はゲスト招聘や開催場所の確保等で最低限のバックアップを担った。

本稿は、メインメンバーが実務作業を担い、取りまとめたものである。

以下、渡邊が「1はじめに」「2イベント準備」「9おわりに代えて」、畠中が「3イベント概要」をまとめ、山本と布施の二人が「4インタビュー」「5座談会」「6閉会」すべての文字おこしを担い、湯澤が「7参加者

アンケートの結果」をまとめた。堀籠はこれら原稿全体の調整・編集と「8イベント記録へのコメント」を担当している。

### 2 イベント準備

学生スタッフ7人は、当日に向けたミーティングを行うにあたり、日程調整の困難さに直面した。そこで効率化と円滑化のために、企画運営に中心に関わるメインメンバーと補助的に関わるサブメンバーとに分かれて準備を進める方針を決定している。背景には創生学部特有の事情がある。2年生のカリキュラムが、履修する専門領域パッケージ<sup>1</sup>によって各自異なり、時間割がばらばらなため、必然的に空き時間がなかなか合わず、全員で集まりにくいという、他大学・学部にはあまり見られない状況と言えよう。

そこでメインメンバー4人を中心に当日への準備が進められたが、イベントの開催日程の決定に当たっても、領域パッケージごとに空き時間が異なるという事態が大きな壁となった。協議の結果、開催日時は第4ターム終盤に当たり学生が参加しやすい2020年2月19日（水）3限と決まった。開催場所は、活動上の便宜から、第2回公務員イベントと同様、多目的ルームを確保した。

新潟市役所からお招きする公務員のゲストについては、学生スタッフの希望を集約し、①通常のデスク

<sup>1</sup> 創生学部では2年時に各自が自らの学修課題と関心に応じて科目領域パッケージを選択し、各領域を足場としてその学修課題にアプローチ

するというカリキュラムを導入している。https://create.niigata-u.ac.jp/subject/package/ 20210206 最終参照。

ワークとは違うタイプの公務員として技術職の方、および、②民間での勤務経験のある方、と決定した。これらをもって新潟市役所人事委員会事務局に交渉し、金子良平氏（東区役所地域課）と小熊美紗氏（建築部公共建築第2課）のお二人をゲストとしてご紹介いただいた。これを受け、学生スタッフのミーティングで、イベントタイトル「Career&Talk キャリトーク～公務員編～」が決定された。



(布施英梨花作成)

学生スタッフは、毎回ミーティングに参加可能なメインメンバーを中心に当日のスケジュールや段取り、役割分担などを決めていき、適宜、サブメンバーと情報を共有し合っていたようである。他方、教員はミーティングの内容や準備の進捗状況の情報を共有したほか、必要に応じて、過去3回のキャリアイベントでの「先輩の経験」「成功・失敗談」を伝え、最低限、必要な実務を担う補佐役に徹した。

学生スタッフ・ミーティングの議論をまとめた「キャリアイベント・プログラム(スタッフ用)」によると、当日の事前準備からイベントの具体的展開は、以下のように計画されている。

#### 12:20 メインメンバー集合

- ①会場準備 (12:30～12:50) サブメンバー集合
- ②事前打ち合わせ (12:30～12:50) ※打ち合わせ担当のみ
- ③挨拶 (山本) 13:00～13:05
- ④ゲスト紹介 13:05～13:20

- インタビュー形式 (インタビュアー：畠中)
- ⑤座談会 13:20～14:00 (20min×2)
- A グループとB グループに分かれ座談会を行う。
- A：将来公務員になろうと考えている人
- B：公務員を選択肢の一つとして考えている人

#### 座談会(前半) FTはファシリテーター

- A：金子さん (FT：山本 書記：布施)
- B：小熊さん (FT：畠中 書記：湯澤)

#### 座談会(後半)

- A：小熊さん (FT：山本 書記：布施)
- B：金子さん (FT：畠中 書記：湯澤)

#### <グループ分け>

- A：山本 (FT)、布施 (書記)、前澤、他参加者4名
  - B：畠中 (FT)、湯澤 (書記)、奥村、他参加者4名
  - ④教員から一言 (渡邊洋子先生) 14:05～14:10
  - ⑤アンケート回答 14:10～14:15
- 片づけ

A 明確な公務員志望者、B 公務員に関心のある者の2グループに分け、参加者のニーズ毎にお聞きする内容を変える配慮をした点は評価される。

### 3 イベント概要

#### 第4回 学生主体キャリアイベント

「Career&Talk キャリトーク～公務員編～」

日時：2020年2月19日 12:55～14:25

場所：新潟大学総合教育研究棟B棟5F

多目的ルーム

《スケジュール》：

13:00～13:05 開会の挨拶

新潟大学創生学部2年 山本芽依  
(学生運営スタッフリーダー)

13:05～13:20 ゲスト紹介：

新潟大学創生学部1年 畠中海斗

ゲスト 東区役所地域課 金子良平氏

ゲスト 建築部公共建築第2課 小熊美紗氏

13:20～14:00 座談会

14:05～14:10 教員からの挨拶

新潟大学創生学部 渡邊洋子 教授

14:10～14:15 アンケート回答

冒頭に学生運営スタッフを代表して、創生学部2年

の山本芽依が挨拶を行った。その後ゲストの方に、学生運営スタッフが事前に考えた以下の質問をインタビュー

質問事項

- ・公務員を目指したきっかけ
- ・1日の楽しみ
- ・失敗したエピソード
- ・今後の夢
- ・あなたにとって、公務員のプロフェッショナルとは
- ・あなたの大切な場所（アナザースカイ）

ュー形式で答えて頂いた。インタビューアは創生学部1年島中斗が行った。

ゲストについて事前に学生運営スタッフによる打ち合わせで、地域貢献に携わる方、民間から公務員になった方、技術職の方のお話をお聞きする方針に決定し、その要望に沿ったゲストを、新潟市人事委員会の目黒勝氏に選んで頂いた。2名のゲストにお話を伺うことで、学生たちはより幅広い視点で公務員について考えられる。

ゲスト紹介の後は、本イベントの参加者を2つのグループに分けて、ゲストを囲んでの座談会を行った。グループを分ける際に、主に公務員を志望している学生と公務員が選択肢の1つである学生の2つに分けた。これにより座談会で話す内容の水準の統一を図った。座談会では、前半と後半に分けてゲストを入れ替える形式にし、参加者全員が2名のゲストと気軽に話せるようにした。学生運営スタッフは聞きやすい雰囲気づくりに努め、ゲストの方にはどんな質問にも丁寧に応対していただき、より具体的で普段聞けないようなお話を聞くことが出来た。自分の公務員に対する感覚が近い人たちと同じグループで話し合いをすることで、活発な質疑応答になった。

座談会の後は、新潟大学創生学部教授の渡邊が挨拶をし、新潟市人事委員会の目黒勝氏とゲストお二人より学生に向けたコメントを頂いた。その後、全体で写真撮影をしたのち、参加学生にはアンケートを記入して頂き、散会となった。

#### 4 ゲストへのインタビュー

##### <挨拶及びゲスト紹介>

司会の布施による紹介で運営リーダーの山本が挨拶をし、イベントを開始した（以下、敬称略）。

##### ①現在の所属と仕事内容について

**金子**「東区役所地域課という部署で勤めております、金子良平といいます。よろしくお願ひします。仕事は主に、区役所の産業関係の仕事と、広報の仕事をおこなっています。」

**小熊**「新潟市役所建築部公共建築第2課の小熊と申します。本日は短い時間ですけれどもどうぞよろしくお願ひいたします。私、職種が一般行政ではなく電気職という専門職をやっております。仕事の内容としましては学校の増築工事・改修工事の設計と工事監理をおこなっています。具体的な内容としては学校や地域の要望、ボランティアが活発であったり、地域の特色のある学校、生徒に特性のある学校の要望や必要なものを取り入れた建物の設計、工事がはじまりましたら、工事の決まり事がたくさんありますのでそれを守った工事をちゃんとおこなっているか、現場の確認をおこなっています。」

##### ②公務員を目指したきっかけとは？

**金子**「私は、大学を卒業するときには全く公務員ということは考えていなかったのですがけれども、民間企業に最初、就職しまして、教育関係の企業に入り、そこで異動がありまして、公務員を目指す人向けにやっている専門学校で講師をやっていた時に、公務員ってこういう仕事だよと教える機会に色々調べてみましたら、公務員って結構人の生活に密接にかかわってくる。民間企業ですと今自分の目の前にいる人だとか自分の顧客にアプローチして仕事をしていくのですけれども、公務員というのは幅広く全ての人が対象となって仕事をしていくということですので面白そうな仕事だなと思って公務員を目指すきっかけになりました。」

**小熊**「私は卒業後すぐに市役所に入っております。3年生の時に就職先を考えるにあたって、3つ、これだけは押さえないということがありました。1つ目が新潟県内で働きたい。もう一つは私は工学部の電気系の学科を卒業していますので、電気電子系の分野の技術職になりたい。もう1つが長く働くことが出来る職場に行きたいというのがあって、調べていた所、たまたま新潟市役所の公務員で、そのまま公務員の試験を受験することになりました。」

##### ③1日の楽しみについて

**金子**「私は趣味という趣味はないのですがけれども、結

構料理をすることが好きで、仕事をしていてなかなか作る時間のない日は、次の日の作り置きをその日の夜に作るのですけれども、料理をすると仕事のことが色々なことを忘れて結構リラックスできるので、そうやっていつも心を整えようとしています。」

**小熊**「私も、毎日ではないのですけれどもお弁当を作って持って行って食べています。朝作るのですけれどもなかなか時間がなくて、パーっと適当に詰めて、持って行くというようにしているのですけれども、仕上がり具合をお昼にじっくり眺めて、『よし、今日は3色揃っていいな』とか『今日は全体的にちょっと茶色いな』とか自分で勝手に評価をして楽しんでます。」

#### ④失敗したエピソードについて

**金子**「私は今、地域で広報をしているのですけれども、自治会とかそういった所でのイベントの取材によく行くのですが、結構、地域・自治体って道が入り組んでいて場所が複雑で、この場所だよ、って言われたときに『まあ、わかるだろう』と思って行ったら、永遠と同じ所をグルグル回ってそこにたどり着けなかった、ということがありまして、それで結局イベントは取材できなかつたのですけれども、謝ってなんとか許してもらいましたが、事前に下見とかしたり、そういうのが必要なのだな、ってそのときは思いました。」

**小熊**「私も電気職ということで、建物の設計や工事、現場確認をしております。ある小さい子供が利用する建物で、エアコンのスイッチ、どうしても小さい子、小学生くらいまでですと勝手にいじってパチパチして遊ぶ子がいるので、全て壁の中に埋め込んで、大人が扉を開けないと触れないように工夫をした建物がありました。ものすごいこだわって設計したのですけれども、出来上がってみたら、電気のスイッチは思った通りに中に入っていたのですけれども、なぜか隣にエアコンのスイッチが外に出て仕上がっていた所があります。この原因は、どうしても専門職、まあ専門職でなくても自分の得意分野がある方はなりがちだと思うのですけれども、手元のものばかり見ていて全体のプランが全く見えていなかったもので、誰も気が付かなかった、ということがありました。どんなに専門職だったり、得意分野があったりしても、全体を見る目が大事だなと感じたことでした。ちなみに、東区にある寺山公園子育て交流

施設い〜てらすという建物で、今もい〜てらすのインスタグラムの写真、結構前の方なのですけれども、失敗したやつが後ろの方に映っている写真があって、後々残る仕事なので気を付けようと思います。」

#### ⑤今後の夢について

**金子**「今後の夢…というそんな大層なものではなく、どちらかという目標に近いのかなと思うのですが、小熊さんと違って私一般行政ということで、役所の幅広い所に異動する可能性がありまして、結構幅広い分野で仕事をしていくことになると思うのですけれども、どこで仕事をしていくにしても最終的な目標ということで掲げていることがあるのですけれども、一つは市民の方に新潟って暮らしやすい街だなんて思ってもらいたいのですね。自分の仕事を通してより多くの人に思ってもらいたい。もう一点が新潟市は他に比べて誇れる街だよ、ということを私の仕事を通してより多くの人に思ってもらえたら最高だな、と思って仕事をしています。それが夢、というか目標になります。」

**小熊**「市役所の電気の仕事は思ったよりも幅が広いです。メーカーですとか、電気・ガスの会社に比べると、一口に電気といっても様々なものに携わることがあります。その中でも、市役所の中という狭い世界なのかもしれないですけど、この分野は小熊に聞いたらわかるぞ、という自分の得意な専門分野を作っていきたいと思っています。まだ具体的に「これだ」というのは見つかっていないのですけれども、資格をとったり、色々やっていく中で、自分に向いているものはないかなと探している途中です。」

**島中**「お二人とも一般と専門、それぞれ素晴らしい理念で本当に見習いたいと思います。」

#### ⑥公務員のプロフェッショナルとは

**金子**「プロフェッショナル(笑)。コスト意識を持って仕事をするということを挙げます。私はもともと民間企業に勤めていて、公務員と民間企業、大きく何が違うかなと考えたときに、民間企業というのは自分たちが利益を生み出して、その利益を元手にまた新しい事業をやっていく。公務員というのはどういう事業をするにしても、市民の皆さんの税金、そういった所が財源になっておりますので、それはやはり無駄に使うわけにはいかにない。より少ない経費・コストで最大限の効果を生み出す、それが公務員に求められていることではないかと私自身思っ

ておりますので、プロフェッショナルな職員というのはコスト意識をしっかりと持っている人、そういう風に私は思っております。」

**小熊**「私は技術職の立場として住民や施設の利用者と建物を設計するプロフェッショナル、建物を造る工事の現場を動かすプロフェッショナルの皆さんの橋渡しをできる職員が技術職の公務員としてのプロフェッショナルだと思っています。ちょっと質問。これから保育園を作ってくださいと言われました。皆さんがいいと思う保育園ってどういうものだと思いますか？多分それぞれ違うと思うのですよ。その違う中でも、要件が、『明るくて安全な保育園がいいな』とか、『こんなのがいいな』っていうイメージがあると思うのですが、技術さん目線でいうとそのイメージっていうのはなかなか建物に反映できないのですね。『明るいつてどういうこと？』『安全ってどういうこと？』『こうだったらいいなってどういうことなのだろう？』っていうのを技術者の公務員として、専門家に橋渡しをする。例えば明るいというのは、ルクスという単位があるのですけれども、『何ルクス以上確保するものを作ってください』安全ってなんだろう、『廊下に何ミリ以上の出っ張りがないように、出っ張っているとぶつかってしまうので、何ミリ以上の出っ張りをつくらないように作ってください』という解釈を挟むことが出来るのが技術職だという風に思っております。」

### ⑦二人にとって大切な場所とは

**金子**「わたしもこの新潟大学を卒業したひとりなのですが、やはりそこで印象に残っている場所ってどこかなと考えたときに、第一食堂はすごく印象に残っています。私は大学の近くでアパートを借りていたわけじゃなくて、実家から通っていたので、授業の合間とかになかなか帰ることもできなかったもので、どこで時間つぶそうかってなった時に、学生食堂に入り浸って友達とずっとしゃべっている、という大学時代でしたね。なので、今日来てもうすごく懐かしいなと思って、大学も変わったのですが面影があって、懐かしいな、私の大切な場所なのだなと再度思いました。」

**小熊**「私は物理的な場所じゃないのですが、市役所の同期、同じ年に入社した人たちと会える場所です。私は金子さんと反対に、大学が県外で、出身も新潟県内であるのですが新潟市ではありません。大学時代の友達と会うってことがなかなかできないと

いうこともありまして、市役所の職員だと転勤もなくあまり退職も少ないということもあって、今も入庁して10年くらい経つんですけども、職場の同僚以上の友達としてやっている関係です。その人達と、仕事のことも多少はありますが、どうでもいいことを話す場がたまにあるので、それを大事に思っています。」

**畠中**「ということはそれがそれぞれお二方のアナザースカイなのですね。」

**会場**「(爆笑)」

**畠中**「それではインタビューはこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。」

## 5 ゲストを囲んでのグループごとの座談会

### A グループ\_金子さん

**学生**「広報をして、新潟がいい所だって知って貰うためにどういう工夫していますか？」

**金子**「学生だと新聞をとるのが難しいと思うのですが、新聞のなか月に2回、第一第三日曜に市報にいがたっていうのが入っています。それが広報誌っていう形で、こっちから開くと市報にいがたなのですが、裏返して反対から見ると、実は各区の内容になっているのですね。各区によって配られるものが違うのですが、私は東区の東区だよりというものを担当しています。市役所便り、HP、イベントの時のチラシ、あとはSNSなどが流行っているので、Facebookを市の方で使ったりして発信しています。より多くの人に伝えるには、媒体を選ぶことが大事だと思うのですね。今、大学生の皆さんは新聞をとっていないので、大学生とか若い人に伝えたいとなった時なかなか伝えられないのです。そうすると媒体はHPであったりFacebookで発信しているってなります。まずはどういう情報をどういう媒体で流した方がいいのかっていうのに気をつけてやっています。」

**学生**「媒体をtwitterとかInstagramとかにしたら、上の人に言われたりしないですか？」

**金子**「それは結構柔軟に、やりたいって言えばやらせてくれます。これを使うとこういう効果がありますからやりましょうっていうと、結構若い人の意見も取り入れられる風土はあるので、そういった意味ではやりがいはあると思います。」

**学生**「伝えたい対象は新潟に住んでいる人ですか？」

**金子**「そうですね。基本的には新潟に住んでいる人で

すけど、市役所って大きくわけて本庁か区役所に分かれます。区役所は8区あります。各区のなかで、仕事をやっていくので、私としてはどちらかと言うと市民と言うよりは区民の方に発信するという事です。子育て世代にこういう制度がありますよとか、こういう補助の制度がありますよって言うのを発信しようとした時に、区役所だよりだけでいいのか、他の所で発信した方がいいのではないかって言うのを考えています。これCMですけど、実は区役所だよりはHPでも見られるのですが、それだけではなく、アプリがあって、そこに登録している市町村の広報誌全部が見られます。そうすると自分が見たいものを登録すると、毎号配信されたりとかするので、そういうものの方が皆さんは見やすいかと思えます。」

**学生「民間から公務員っていうことですが、公務員になるって決めた後はどんなことをしましたか？」**

**金子**「実際私は公務員になる人用の専門学校で指導していたので、学生に対してこういうふうにした方がいいよって言っていたのを自分がやった。2つやって欲しいなって言うのがあるんですけど、もちろん公務員試験があるから勉強はあるのですが、それ以外に相手を知ること、自分を知ること、これは絶対やって欲しい。特に自分を知ることやって欲しいと思います。面接とかやらないといけないんですけど、自分のことって分かりますか？自分ってどういう人間なのだろうって思い返してみると、聞かれたら答えられないってことがあると思うんですね。面接とかで背伸びしようって人がいるのですが、それはあまり意味がなくて、自分の内面を等身大で伝えるってことが大事なのですね。自分のことを知ることが大事で、そのために自分ってどういう人なのかになって、ふとお風呂に入った時とかに考えてみるのもひとつの手だし、身近な人に聞いてみるでもいいかもしれないですね。家族とか友人とかに自分ってどんな人かになって、自分を客観的に見てくれる人に聞いたりして考えてもらいたいなと思います。さらに、何事もたくさん経験をして欲しいなと思います。別に勉強だけじゃなくて、アルバイトでも地域のイベントに出てみるとか、なんでもいいです。自分の内面は等身大でしか伝えられないんですけど、もっと良く伝えたいってなったら、自分の等身大を広げればいいのです。色々な経験をして自分の内面をどんどん成長させて欲しいと思います。相手を知って言いましたが、例えば公務員を受け

たいってなった時、新潟市を知りたいってなった時、どうやって新潟市を知りますか？さっき私が申し上げた広報とか、色々お知らせがあるので、特に今市が力を入れているのを知った方がいいと思う。HPに新着情報って言うのがあるのですが、そこって本当に新しい情報なので、今新潟市でこんな取り組みしているって言うのがわかってオススメかなと思います。」

**学生「何かいい勉強法ってないですかね？」**

**金子**「私は教えていたので、テクニク的なことを言ってもいいですかね。形式になれる事が1番だと思います。全く勉強していなくても過去問とかを10回分くらいとくと絶対点数が上がると思います。形式を知るだけで全然違うと思います。」

**学生「民間と公務員の風土の違いはありますか？」**

**金子**「違いは結構ありまして、民間の時に個人でする仕事が多かったのですね。それが公務員に就職してみると、先程言ったようにすごい仕事の範囲が幅広くて、私の仕事で言うとか広報とか地域とかスポーツとか文化とかあるので、産業分野でも地域の分野でもスポーツの分野でも発信しなきゃいけないから広報と密接に関わる。つまり、自分はこの担当だけど他の担当とも密接に関わっているからその連携とかやり取りが非常に重要になってきます。そこが大きな違いだと思いました。」

**学生「先程、相手を知ることと自分を知ることっていうのがありますが、民間にもそれは当てはまりますか？」**

**金子**「どっちにも当てはまりますね。要は自分のことを知らないといけないかなって思うのですね。例えば民間で営業とかするじゃないですか。自分の所の商品を売るじゃないですか。知らなければ売り込めませんよね。」

**学生「普通に民間で働いていた人が公務員に転職することって出来るのですか？」**

**金子**「私の同期でも7、8人いる。皆さん仕事しながら勉強して入られているので、そういう選択肢も無くはないと思います。私の場合は民間で7年やっていたので、民間の採用枠というのがあったのです。」

**目黒**「担当部署の立場から言わせてもらうと、新卒の方だけを対象として採用をしている訳ではないです。民間企業の職務経験があれば59歳まで受けられるという枠もあるので、新卒じゃないと無理って言うのはないです。」

**学生「民間にいた頃の経験が公務員になってから生き**

ましたか？」

**金子**「コスト意識かなと思うのですよね。入ってギャップを感じたのは、周りの人が何もしなくても収入があるという状況。イベントとかでなにかにお金を使いましょうってなった時に財布の紐が緩い、もう少しコスト意識をしっかり考えてやった方がいいのにとすることがある。そこで民間の経験が活かしているのかなと思います。民間経験者が公務員のおかしいと思う所を直して欲しいみたいな感じで言われているのですね。公務員しか経験していない人にとって新しい風を吹き込めるのかなと思っています。」

**学生**「今の時点で金子さんの思う新潟の素敵な所はどこですか？」

**金子**「私の中で新潟ってこれだという1本突出したもののってそんなにないと思うのですよ。色々な物が揃っているというか、どこの部分も平均的、無いものはないし、人口も政令指定都市で多いという所と、都会と比べると地価も安い。他には人がゴミゴミしていないというか、1人あたりのスペースも広々としている。そういうところが暮らしやすいのかなと思います。1個突出したものを作るより、それぞれの所で力を注いで、そこから暮らしやすいと思って貰えるのが誇りというか、近道かなと思います。ちなみに、ひとつCMさせていただけますと新潟市の東区でイチオシの物があるのですが、皆さんわからないですよ（笑）。じゅんさい池は今結構力を入れています。じゅんさいという植物を取れる所があって、春は桜の名所ですし、夏は蛍が見られて、しかも街中にあるのですよ。観光スポットになっています。さらに、今東区でイチオシなのが工場夜景というものです。東区は産業の街で工場が非常に多いのですよ。昔は排気ガスとかそういうのが環境に良くないのではないかって言われていたのですが、最近企業の方が努力されて綺麗になっています。昔は工場って言うとマイナスなイメージがあったけれど、いいイメージに変えて、夜景っていいよねって毎年工場夜景ツアーが組まれて、かなりの人気になっています。10倍くらいの倍率で。来年は回数を増やしてやるような感じですけど、一応これが東区の売りです。」

**A グループ**\_\_**小熊さん**

**学生**「技術職ってすごい女性の方が少ないイメージなのですが？」

**小熊**「実は、そんなことは無いのです。技術職ってい

っぱいあって、社会福祉も技術で、女性の方が多いです。土木、建築、電気、機械、化学、農業辺りまでがよく技術職って言うのですが、建築は多いです。3-4割が女性です。毎年1人ずつくらい入って来ています。土木も結構います。毎年いるのじゃないかな。化学もいます。電気は2人です。私ももう1人。それで、機械は1人だけ。ちょっと電気と機械が極端に少ないだけでその他の分野は増えています。」

**学生**「電気とか化学とかは全体で何人くらいなのですか？」

**小熊**「いっぱい居すぎてわからない。」

**目黒**「そうですね、100はいるかな？」

**学生**「その中に1人2人ですか？」

**小熊**「職員自体はもっと居ます。土木とかって区役所にもいるので、数はちょっと数えられないくらいいて、割合で言うとその中の、3、4割だったり、1、2割だったり、電気と機械だけ1人2人ってカウントできて1と2っていう数です。」

**目黒**「事務職も含めると、今採用されている方も女性が実際多いという印象があるし、周りで働いていても女性の管理職が凄くいっぱいいます。電気とか機械ってそもそも大学でそんなに女性が多くないのかなと思います。」

**小熊**「そうですね。私たちの時は受験時の学科要件があって工学部の電気系の学科卒業した人の中で公務員試験を受けたい人って言う条件があったので、たぶん数が極端に少ないのかな。今は受けられるので、ご興味があれば。」

**目黒**「他の自治体から転職してきた人とか、民間から移動してきた人に新潟市って結構管理職の女性多いねって言われることはいっぱいあります。自分たちも意識しないできましたけど、女性の上司とか当たり前ですし、そういう意味ではすごく、お休みを取りやすいというのものもあるかもしれないですけど、男性も女性もすごく平等で、働きやすいという風に思っています。なんか売り込みみたいになっている。」

**学生**「お弁当によく入れる具材はなんですか？」

**小熊**「いいですね。私最近、味付け卵とひじきを梅干し刻んだやつと炒めるのが好きです。でも最近飽きてきちゃっています。週末にまとめて作って、100均に売っているケースに詰めて冷凍して朝ピャって入れて、それも金曜日にかけて在庫が減ってくるので、茶色茶色とか、同じ味とかになっちゃうので、

お弁当をパカって開けてうーんってなります。学生の時には全然作ろうなんて思っていないです。就職して、前の職場では出先って言って市役所の建物ではない水道局にいたのですが、10人くらいしか職員が居ない所なのです。ご飯とかないので持ってくるか、仕出し弁当みたいなのを頼むしかなくて、私酔の物嫌だからしょうがなく始めたって言うのがきっかけです。」

**学生「朝って何時くらいに起きて何時くらいに出たりしますか？」**

**小熊**「理想は職場が近いので6時に起きて、40分に出る。ただ、今日は6時半に起きました。今日はここで食べました。」

**学生「寝るのは何時くらいですか？」**

**小熊**「私遅くて、1時とかなんですけど、うちの職員で今年2年目の新大卒の子がいるのですが、10時くらいに寝ているって言っています。とても健康的な生活ができる市役所です（笑）。

**学生「今までどういう職場を経験されてきたか教えて頂きたい。」**

**小熊**「私は技術職で、一般事務と比べて移動範囲が狭いです。ほとんどが今いる公共建築で、2つあるのですよ、1課と2課。対象としている建物が違うだけで。その他は新潟市水道局の信濃川浄水場という所にいました。浄水場は多分技術部という所に入るので、技術部で最初の女性技師だったらいいです。別に、だからどうってことはないです。1人だからって気負うことも無いし、向こうはもしかしたら更衣室問題とかで悩んだかも知れないけれど、それ以外は別に普通に同じ仕事をしています。私は技術職ですけど、一時は契約とか会計だったので。なので、行政じゃなくても何やるか全然わからないし、行政職ってほんとに広くて、さっきの金子さんって地域密着の人もいれば、内部でお金のことをどうこうする人もいるし、医療とかそっちの方に配属される人もいるし、私たちと一緒に建物作る人も一般事務でもいるので。色々です。」

**学生「人間関係とかどんな感じですか？」**

**小熊**「私の所すごくよくて、8個くらい下の後輩が私にダメ出しをしてくるし、1番上の先輩にタメ口聞いていますし、それがいいかどうかは別ですけど、なんでも話しやすい環境なので仕事のことだけしか話さないとか自分のことしかやらないではなくて、『今度どこどこ行ってくるから休むから』『どうぞどうぞ』とか。環境としては凄いいいと思って

います。自分の部署もいいですし、全体的にも優しい方がいいじゃないので、悩んだことは全然ないです。」

**学生「大学生活って1番楽しいイメージがあって、なんとなく大学の友達と疎遠になるのが寂しいなあって思うのですが、実際に大学で過ごした場所を離れるのはどうでしたか？」**

**小熊**「大学が千葉県なので、ほとんどの人が今関東にいます。その辺の人達は半年に1回は集まっています。私だけ遠方なのでちょっと行けないですけど、連絡は取っていますし、行こうと思えばいつでも行けるので、結構大学で作った友達って一生続かなかないかと思っています。戻ってくるのに抵抗はありました。ギリギリまで迷って、最終的に決めたのが4年生の1月なのです。それまでずっと決められなくて大学院も公務員試験も受かった状態で、ずっとどうしようって。ただ、私の場合は、私が勝手に思い込んでいただけかもしれないですけど、実家に戻らないと、というのがあったので、とりあえず戻ろうと思って戻っています。最初は辞めようかなと思った時期もあったのですが、あまりにも居心地がよくて、2、3年のはずか、もう10年超えてそのままズルズルと（笑）。でもいいところ取り出来たかなって感じはします。仕事もさっき言ったみたいに周りみんないい人で、環境はいいですし、大学の友達とも今も続いているので、どちらも取れてよかったかな。後悔してないかって言われると後悔はしてないけれど、向こうに言った方がよかったかなと思うことはもちろんあります。ただそれはどっちを選んでも同じですね。」

**学生「入社してから3年目くらいまでどういう仕事を経験しましたか？」**

**小熊**「私の場合は、今と同じ公共建築第2課に配属されて、設計と工事監理などの仕事をしていました。学生の時に、就職して半年とか1年は研修みたいなのがあって、色々みて先輩について1年くらい経ってからちょっとずつデビューと思っていたのですが、半年経たずに現場に行きますし、3年間本格的に業務に携わったなという感じです。これは、配属される部署によってまちまちだと思います。しっかり育成してもらえる所もあれば、わたしよりもっと早く業務に携わる部署もありますし、3年間どう過ごすかは部署次第です。どこに行くかは分からない。どこに行っても、ほっぽり出されて放置されることはないと思います。比較的自立が早い部署で



も、先輩に聞けば教えてくれますし聞いたら怒られるなんてことは全然ないし、一年目でできる仕事、2年目でできる自分の限界をしっかりとこなせれば100点。」

**学生「最初のうち仕事をしていく上で、社会人として大事にしていることはなんですか？」**

**小熊**「最初の方は先輩に言われていたのですが、仕事が全部出来るのは無理。今も無理。求められたこと100点120点は出来ないの、いま出来ることを精一杯やりなさいといわれました。その通りだと思いました。今後輩がいる立場では、彼は法律の知識もまだ2年目なのでないのですが、今できる範囲のことをしっかりとやるので充分かな。ただ、変に技術ばかり付けて、手抜く方法を探すより、目の前にある仕事にしっかりと向き合えばこの職場でも役に立つと思います。」

**学生「目上の方との関わりとかはどうでしたか？」**

**小熊**「私はすごく甘やかされていて、男性ばかりの所に1人でぼんち行ったので、多少ビジネスマナーの不足などは、全然悩むことはなかったかな。最初は現場に行くまでは大丈夫かなとか心配だなんて自分の父親よりも上の人とやり取りしないといけないので。でも、いざ行けばそんなことも無いですし、私は立場もただの平の1人なので。先輩がいる立場からしてもそんな身構えなくてもいいなとは思う。気遣いとかしているのは見れば充分分かるので、それだけしていれば充分かなと思います。」

**学生「あえてちょっと悪い面を言うとしたら？」**

**小熊**「いっぱいありますよ。民間に比べるとコスト意識が低い。どうしても建物を立てて資産価値と投資した価値が1:1にならないです。学校を建てるのは、資産価値が出来るから投資するわけじゃない。ちょっとコストの面が見えづらいのですね。どうしても技術者としてやってみたいこととかを入れてしまいがちなのですが、本当に求められているものか、どこまでやるかという目線は全然足りていないと思っています。新潟市にお金が無さすぎる事情もあり、年々良くなっているとは思っています。そんなのが山のようにあるのですが、職員一人一人がこれってどうなのだろうと思った時に改善し、改善するとまた新しいのが出てくるから、その都度変えていくしかないのかな。私が担当している建物がいっぱいあって、一斉にメールが来るのですが、間に合わないのですよ。早くしろ早くしろって。ちょっと多すぎじゃないかなって思う時があります。」

**学生「メールはどう返すのですか？」**

**小熊**「すぐ返せないのは、いつまでに言えばいいか教えてくれてって言って遅らせたり、どうやったらいいんだ？って言うのは、聞く相手が私じゃないって、人に回すとか、そういう交通整理で50件とかある。もうちょっと職員増えないかなとか思っちゃうこともありますけど、それを効率よくやることにちょっとした楽しみがあるので、今日は9時までに終わったぞとかが楽しい。」

**学生「入った時と今の違いはありますか？」**

**小熊**「技術的な部分でいうと、私が入った時、蛍光灯の1番最後のタイプでこれが主流だったけれど、ほぼLEDで今はないです。最新のLEDになるあいだに1世代挟んでいて、10年で4世代くらい変わるので、ものが変わっただけじゃないですけど、情報設備は当時とは規格が全然ちがう。技術的な目線で言うと、10年なんてまるっきり変わっているような感じですよ。役所の体制としても、前は専門職は専門だけ。一般行政も事務寄りと市の財政を統括する人とで分かれていたけど、今はそんなこと言ってもらえず、私達も契約や事務、監査、防災、色々な所に行くし、行政の人も色々なことを幅広くこなして、自分に合うものを探して、自分の範囲はどんどん広がっていきますね。」

**学生「ありがとうございました。」**

**B グループ\_小熊さん**

**学生「創生学部という学部を聞いたとき、第一印象どう思いましたか？」**

**小熊**「この企画を聞いたのは、課長に『小熊、ちょっと来て！』と言われ、最初怒られると思って行ったのですよ。『地域創生なんか学部からなんとか』って言われて、私の所に正しい情報が伝わってなかったのですね。オーダーもまた、地域のことについてしゃべると言われて、地域貢献とかそういったことをされるのかな、と最初は思いました。その後ホームページで見させてもらったり、向かいに新潟大学の工学部の人だったので、最近できたんだって教えてもらいました。創生学部って言葉を聞く前に全然違う情報が先に入っちゃって」

**学生「実際、公務員になる前となった後って、イメージのギャップみたいなものってあったのですか？」**

**小熊**「最初は多分皆さんと同じで、市役所なんて行くことはまずない。市役所が何をしているのかも知らない。どんなお仕事をしているのかも何にもわからない

い状態で、勝手なイメージが窓口でハンコを押している状態だったのです。いざ入ってみたら、私は技術職ということもあって、まず窓口はありません。ハンコも押すことは押すのですけれど書類ではなくて図面・計算書あと現場で全く別物でした。行政に入ったとしても皆がみんな窓口に出るわけではない。人事委員会の人が（今日）いるのですけど、全然窓口じゃないですし、産業だと観光だとか人により建設につく人もいますし、財政関係に行く人もいます。もちろんイメージしたような窓口もあります。入ってみて、こんなに色々なことをやっているのか、というのが正直な気持ちでした。」

**学生**「**小熊さんが考える公務員ってこういう人が向いているのではないかなというのがあれば教えてください。**」

**小熊**「こういう人がいた方がいい、というよりも色々な人がいた方がいいと思うのですよ。新潟市だと、みんながみんな新潟市出身で新潟の学校を卒業して、だとすると『新潟ってこうだ』と思いこじやったりするじゃないですか。でも県外の人だったり、国外の人、もしかしたら住んでいたことがある人がいるかもしれないし、すると向こうではこうだったのに、これちょっと違うんじゃないって色々な目線が入るので、できるだけ色々な人がいる方がいいな、と最近特に思っています。私はこうだから向いている・向いていないって思う必要はなくて、自分が入ってみてこれが向いているなっていうのがあれば、それでやっていけばいいかなって思っています。」

**学生**「**今、市役所で働く人、県外も県内どれくらいの割合ですか？**」

**目黒**「新潟市役所において出身って全然採用に関係ないのですが、人事委員会事務局は県外出身者は3割、新潟市内出身者は4割、残り4割弱は合併して新潟市になった所出身という感じですかね。」

**小熊**「入るのもみんな22歳で入ってくるわけではなくて、私たち専門職になれば院卒も結構いますし、一浪一留だったりどっか民間に行っていたり、さまざまなので、出身地も性別も年齢も色々です。」

**学生**「**先ほど新潟市外から新潟市の方に就職されたという話を聞いたのですけれど、地元じゃなくて新潟市を選んだのには何か理由があったのでしょうか？**」

**小熊**「私は電気職という職種で、どこの自治体でも募集しているというわけではないのですね。採用して

いる所が少ないのですよ。新潟県内では新潟市が県くらいしか枠がなかったというのが正直な理由です。あと私は田舎出身なのであまりにも小さすぎて、小さいからこそいいっていうのもあるのですけれど、私はあまり小さくて近所の人ばかりというよりは、ちょっと広いほうがいいかなっていうのもあって、新潟市にしました。」

**学生**「**今、やっている仕事で楽しいことって何かありますか？**」

**小熊**「私の仕事っていうのは、形に残る仕事なのです。建物を設計して、まあ私が絵を描いているわけではなくて、人をお願いして描いてもらっているのですけれども、こういうことをしたいっていうのを伝えて、図面にして、それを実際に現地で立体にして建物として出来上がる。思っていた通りにいくこともありますし、思っていた通りにいかないこともある。どちらにしても思っていたものが将来にモノとして残っていくので、やっている最中はつらいと思うこともたくさんあるのですけれども、出来上がってみて1年2年経つとまあよかったかなという風に思っています。」

**学生**「**自分は公務員じゃなかったらこういうことにも興味があったな、とかありますか？**」

**小熊**「私はもともとあんまり公務員だと思ってきたわけではなくて、複数ある中から選んで公務員になったので、医療画像工学っていうのが本当は一番やりたかったんで、きっと公務員をやっていないとUターン就職していなかったら、それをやっていたと思います。」

**学生**「**就職するときに県庁っていう選択肢はありましたか？**」

**小熊**「ありました。ありました。」

**学生**「**なぜ県庁ではなく市役所へ？**」

**小熊**「参考にならないかもしれないのですけれども、採用案内パンフレットに勤務先例としてダム管理センターと書いてありました。ダムがある場所は、すごい山奥なのです。私はそのときペーパードライバーだったので、怖くて行けないなと思って。目的意識を持って決めている人っていっぱいいると思うのですけれども、私みたいに消去法で決めている人もいますよっていう（笑）。まあ、いいんだか悪いんだかの例だと思ってもらえれば。」

**学生**「**公務員の話をいろいろ聞く中でいい面はいろいろ知っているのですけれども、もしなにか悪い面があったら（教えてください）**」

**小熊**「正直な所を言うといっぱいありますよ。民間と違うのはコスト意識はすごく低いと思っています。これからは役所の職員であってもコストを常に気にしないと。新潟市はお金がないのですよ。何か作るのも市民のためだっていうのはわかるのですけれども、何でもかんでも出せるわけじゃない。こっちはこんないいものができていて、こっちも要望がいっぱいある。お金がなくて、どこまで落とせるか、機能維持してどれだけ落とせるか、建物だけではなく、なんでもです。意識の持ち方は民間とは比べ物にならない位低いなと思います。まあ、一個一個見ていけばそういうのはたくさんあるのですけれども、私の印象は年々良くなってはいるなって言う気がします。」

**学生**「公務員試験、面接とかありましたか？」

**小熊**「ありました。まあその時によって変わっているのですけれども。私はすごい昔だから。」

**目黒**「来年度からの採用試験がどうなるかはわからないのですが、新潟市って基本人物重視で、求める人材像みたいなのが新潟市のホームページを見ると出ているのですよ。それに当てはまるような人たちを採用させてもらっているっていう話をしておきますね。もしよかったら採用ホームページがあるのでそこをみてもらえればと。」

**学生**「さっき3つの軸を決めていたとおっしゃっていたのですが、その軸をもとにそのときに公務員しかなかったのか他にも当てはまるものがあつたけどそれでも公務員だったのか教えてください。」

**小熊**「ほぼ一択に近かったですね。私実は大学院が決まっています院に行くつもりだったのです。大学3年生っていうかほぼもう4年生にかかる頃ですね。時期も時期だったのでほぼ一択でした。後県内だとほぼ会社も多くないので希望していたのが電気会社、ガス会社、あとお煎餅屋さん、暖房機のメーカーだったのですが自分の希望していた電気の分野というのがなかなかなくて唯一銀行だけが近かったのですけれども、他の所は敵が多かったりして…転職がなくていいなと思うのですけれども。それはそれで。」

**学生**「転職とか休みとか給料とか、より細かい所までちょっと聞きたいです。」

**小熊**「私の実際のっていう所になっちゃうのですけれども、私は初任給で何とかやっていると、ここまでくると、まあまあ普通にはもらっているけれど大学の同級生に比べると安いです。休みは取りやす

いです。すごく取りやすいです。この間火曜日休みだったじゃないですか。2週間位前でしたっけ。私月曜日休みにして4連休にしていたのですよ。あと海外旅行が好きでたまにいっちゃいますね。」

**学生**「休み取れるのですか？」

**小熊**「はい。うちの後輩、10日間位いなかったですよ。先月、『ヨーロッパに行く』って行っていなくなりました。とても休みやすいです。私の部署はっていうことになっちゃうのですけれどもね。部署によっては窓口の当番とかがあるとなかなか融通がきかないという所もありますし、私たちみたいに自分である程度どうこうできる部署は休みたい時はバカンスしたりしています。」

**学生**「公務員でこれよかったなあということってありますか？」

**小熊**「守りの方で言うと職場は安定していますね。友達がいつている所の業績がすごく悪いかたまたまニュースで出たりするのですよ。するとドキドキしちゃうじゃないですか。そういうのはあまりないなとは思っています。後私は専門職だっていうのもあるのですけれども、電気専門で入るとメーカーって基盤のこの部品だけを専攻するのですよ。人生でずっと。公務員だとわりと幅広いので私は電気の仕事なのですけど一時会計とか契約とかもやっていましたし、この前水道局で現場作業していたこともあって、色々できるっていうのは公務員の良さだなと思っています。」

**学生**「それって自分でこれがやりたいとか言って決めていくのですか？」

**小熊**「最初の10年ぐらいは教育期間じゃないですけど、色々やってみようっていう感じです。希望は多少は通るかもしれないですけど、基本的に色々なのをやってみようねって言ってやっています。その後10年もしたらだんだん立派な職員になっていると思うので、これがやりたいっていうのがある人は専門家、私たち技術の専門家ではなくて、税金に行きたいとか健康福祉に行きたいとか、財政に行きたいっていうのも通る仕組みにはなっています。100%ではないですけども。今これがやりたいと思っても、いざ入ってみるとちょっと向いていないかなとか、他にこっちもやってみたいなと言うのが出てくることもあるので、まずは色々やってみて自分の手を動かして、周りがやっているのを見てこれがいいなっていうのができればそういう道に入っていけばいいのではないのでしょうか。私、

水道局に行った時に、やっていきたいと思っていたのですよ。でも本当に向いていなくて、これはダメだと思ったことがあったので、意外と思っているのと手を動かすのって違うんだなっていうのが本音でした。」

**学生「市役所内の他の部署の人との関わりってどんな感じなのですか？」**

**小熊**「部署によって違うのですけれども私は接する機会が多い仕事をしています。前に新潟市の建物のお困り事を聞きますっていう窓口をしていたので建物を持っている全部の部署が対象で、顔も見たことがない、管理職の人でも来たことがあるかな。なんか照明がつかないとかほんとに、全員の人と関わっていました。」

**学生「女性の方とかだと育休をとっている人とかは？」**

**小熊**「いっぱいいますよ。辞める人はあまりいません。男性でも取っている人がいます。女性もほぼ取るので、今時短勤務の人もあります。産休育休以外にも介護だったり自身の病気だったり私も実は療養を取ったことがあります。後はお子さんの送迎や自身の通勤の様々な事情で「ズレ勤」という制度もあります。まだ完全に民間みたいなフレックスではないですけど15分とか30分とかずれている人があちこちにいるこの人は4時で終わり、この人は9時からしか来ない、とかもあります。一概には言えないですけど、私の友達の話ですけど民間のいわゆる大手と言われているような会社であれば、向こうの方が良かったりはしますよ。エンジニア職って言うこともあると思うんですけどね。知的財産とかを扱っているお仕事なので辞められると困っているのもあって、公務員より良い所もありますけど、公務員というか新潟市はそういうのに恵まれているなっていうのはあります。」

## B グループ\_金子さん

**学生「民間から公務員になる時に普通の大学卒から公務員になるときみたいに公務員試験を同じように受けるのですか？」**

**金子**「はい。私の時は試験があったのですけれど。さっき人事委員会の人がおっしゃっていたのですけれど、新卒採用は確か28歳まで受けられて、それ以降は何歳以上の場合59歳まで民間採用の人が受けられるという枠があって普通の一般採用と民間の採用は、枠は別なのですけれども、試験はちょっと違いましたね。新卒で受けるとしたら専門科目っ

ているのがあるんですね。我々の民間採用枠というのがあった時は一般教養だけでした。社会科学、自然科学とかあとは数的推理、判断推理とかそういうのだけで、法律とか経済の専門科目はなかったですね。ただ倍率がすごかったです。」

**学生「民間と公務員の違いと言う面でここは公務員のほうがいいのか、ここはあまり良くないのかがあれば実感でいいので教えてください。」**

**金子**「民間の中でも結構違いがあるので、私が感じたということでお話しさせていただくと民間が良かったのは1つのことを深くできるというのがあったのです。私は教育関係の仕事で講師をやっていたのですけれども、講師はそれを極めるという所があったので、どんどんそこだけに力を注ぎ込むというのはすごくやりがいがあったと思います。その反面、それだけやっていると果たして社会のためになるのかなという風に思う所があって、社会貢献っていった時にやはり民間より公務員の方がやりがいがあるのかなと。ちょっとうまく言えないのですけれども、思います。果たして自分はこれでいいのだろうかと思ったのです。こればかりしていいのだろうか。最近災害とかも多いじゃないですか。災害になっているのに自分は何もできない状況。これでいいのだろうかという。やりがいという意味では人それぞれ感じ方が違うので、人に何かをしてあげることにやりがいを感じる人はいいと思います。あと悪い所…私仕事で事務仕事をしたことがなくて。講師しかやっていなかったの、初めて市役所に入って事務仕事をしてめちゃくちゃいっぱい書類を作らないといけなくて、誤字が多く提出し直さないといけなかったり、法律とか条例とか規則とかそういうのを読みながら仕事しないといけなくて。私は経済学部だったので法律の勉強とか全くしたことがなかったのでこんなどうやって読んだらいいのだろうかっていうのはあったので、そういうのをやらないといけなくてっていうような点は、まあ嫌な所だなって思いますけれど、こんな私でも今はちゃんとできているので、はい。」

**学生「社会貢献のやりがいっておっしゃっていたのですけれども、それはどんな時に感じるのですか？」**

**金子**「私今市役所で2カ所目なのですけれども1カ所目がいわゆる本庁という所で。一般事務は本庁と区役所という所で分かれていて、区役所では結構地域のひとやりとりがある。本庁というのはその8区を束ね、統括している部署なので、どちらかと言うと

地域の方と直接会うみたいな仕事の方が(社会貢献のやりがいがあります)。最初、本庁の方で統括の方の立場だったのであまり地域の人と話をしたり仕事したりする機会がなかったので、そこまで違いを感じたりはしなかったのですけれども。区役所に異動になってから、地域の方の所に出て行くことが多かったですね。そうするとやはり言っている事とかがわかるじゃないですか。こうだよ、ああだよとか言ったりして反応が見られるのですね。特に私は広報の仕事をしているときに、各自治体とか地域で取材を頼まれることが多いのですね。それを取り上げてくださいと。で、その取材に行くと、かなり喜ばれる。地域のおじいちゃんおばあちゃんたちに。それでまたやる気になる、みたいな感じで喜んでもらっているのです。そういうのを実際に見るとなんか自分のやっていることって意味あるのかな、社会貢献できているのかなっていう風に思います。」

**学生**「採用面接で公務員にとって必要な資質みたいなものは民間と比べて何かあるかって言う質問があったのですが、民間と公務員どっちもやってみてどうですか？」

**金子**「今世の中でコンプライアンスが重視されていて、しっかり法令を守りながら仕事をしなければなりません。特にそれをやらなければいけないのは公務員。他の人も守らなければいけないのですけれども、それ以上に公務員は法律をもとに仕事をしているわけなのでやはり法律をしっかり守らなければならない。それと不公平があってはいけないのですよ。民間だったら、今は社会貢献も求められていますけれども、やはり自分の顧客に対して満足してもらっているのが基本スタンスなので。ただ公務員と言うのは全ての人が対象になるわけだから、より民間企業の人よりも公平性の観点を持つということが私自身は大事だと思います。地域で権力を持っているような人とか、『俺が言うんだからこれはちょっと規則を曲げてやってくれ』と言うような人、『自分だけ特別扱いしてくれよ』みたいな人もいると思うのですけれど、それを認めちゃうと皆さんに対して公平では無い、という事になるのでよくない。色々言われるかもしれないけれど、しっかりと説明をしてわかってもらうということが大切です。そういった意味では説明する能力っていうのも大事かもしれないですね。」

**学生**「その他に金子さんがやっている仕事に必要な能力というのはありますか？」

**金子**「市民感覚を持つということが大事なと考えます。やはり実際公務員になったり、そうでなくても仕事をしたりすると同じ所の行き来で、同じ環境の中でずっと生活していくってことがあると思うのですけれども、そうすると自分が固定観念に縛られちゃうことってあると思うのですね。そうすると市民はどう考えているのか分からなくなってしまふ時があるような気がするのです。中で閉じこもらずに色々な所に出て行って、色々な経験をして色々な人の考えを吸収しながら、バランス感覚を持って仕事ができることが大事なと思います。市民の方々と同じ感覚を持つっていう事ですね。それが大事になると思います。」

**学生**「民間から公務員に入ったとき最初人間関係に困ったりはなかったですか？」

**金子**「結局民間でしょうが公務員でしょうと一緒に仕事をするには変わりが無いし、同じ人間なので全然問題ないのだろうなと思って入りましたが、人間関係ではそんなにギャップというか困った事は無いかなと思います。結構どちらかというと、民間企業の時は新卒で入ったときにあまり教えてくれない。自分で考えて自分でやってくださいと言う感じだったので、公務員に入ったら結構上の方が細かく指導してくれて、私はその点では結構手厚いかなと思いました。こんな所まで教えてくれるんだって言う。パソコンの使い方まで教えてくれるんだって言う所がありましたね。」

**学生**「民間で働いていらっやった時に教育関係の仕事だって言うのを聞いたのですが、公務員で教育関係の仕事をしたって言うのはなかったですか？」

**金子**「教育関係と言うと教育委員会と言う所がその中にあるのですけれども、そこで働くという選択肢もあるのですが、我々の一般行政と言うと幅が広すぎて希望したからといってなれるかどうか分からないですけれども、確かに1つの選択肢として今までの経験を生かしてそこで働くのもアリなのかなという風に思っています。実際、幅広いのですけれど、私の中でも最終的にどの分野で頑張っていきたいっていうのは今まだ見定めている最中です。私は社会人はもう14年目なので、14年ずっと公務員でやっていたらあらかた色々な部署を経験して、『私はここで生きていく』とか『私はここで頑張っていく』とかあるかもしれないのですけれども、まずは色々な所を経験して、その中で決めてい

ければいいなと思っていて、その中の1つに、教育委員会っていうのがあれば、それがいいのかなと言う風には思っています。」

**学生**「市役所の中でいろんな仕事をしていらっしやると思うのですが、そういった仕事をしていなかったらどういった仕事をしたい、もう一度就活ができるとしたら自分はこういった所が良いとかありますか？」

**金子**「私はどちらかという新しいもの好きなので、新しいことをしたいなっていう風に思うと思うんですけど、ただ今の仕事はやはりすごい好きなのでもう一回就活をするとしたら選択肢には入ってくると思います。もう一回受けて受かるかどうかはわかりませんけど。」

**学生**「民間から公務員になられて、民間のこれを今生かしているなどというのがあれば教えてください。」

**金子**「そうですね。専門学校の前に学習塾で働いていたことがあったのですが、やはりどんな仕事をするにしても顧客ファーストというかホスピタリティというのが大事になってくると思うのですね。公務員という市民ファースト。窓口にいる時もいつ来てもらってもいいように準備しておかなければいけないし、イベントを開催するにしてもその人たちが快適にイベントに参加できる状況を作ってあげなければいけないと思うのです。それは私が民間で学習塾という所で生徒を向かい入れるために色々な準備をしていたのですね。教室を隅々まできれいにするとか、黒板を白い粉が一切残らないようにやるとか、隅々まで叩き込まれたのですね。そこでホスピタリティと言うのは大事ななと感じたので、そこは今の仕事にも生きているかなという風に思います。」

**学生**「最初に教育関係の仕事に就かれた理由というのは？」

**金子**「私は大学の時に児童文化研究部って言うクラブに入っていて、子供に人形劇をしたりして遊んだりする部活なので、それをやっているうちに子供とやってやばいかなと、子供に何かする仕事っていいなと思って、大学時代に学習塾でバイトをして、俺はこれを極めていくんだっていう感じでわき目も振らず、もうちょっとその時に考えておけばよかったかなと思うのですけれども、そこでそこしかないと思って。そしたらこういう風になってしまったのですけれども。で、就職して民間で頑張っていたのだけれども、なんかちょっと違う感じ

がどこかであったのですね。大学時代ってやっていた経験って多分無駄なことってないと思っていて、何でもいいのでそういう経験をたくさんしていてもらえたらいいなと思っています。」

## 6 閉会

**目黒**「人事委員会事務局の目黒と申します。今日はこういったイベントの場を作っていただきありがとうございます。うちの職員に関して話してもらいたいことはふたりから話してもらったのですけれども、仕事のやりがいの話があったので、ちょっとだけ私からもやりがいについて話をさせてください。今回は一般行政事務と技術職ということでそれぞれ話をさせてもらいましたが、事務職ってやはり人との繋がりが多かったり、金子は地域課なので自治会の方とのやりとりだったり、イベントをつくったりします。小熊のほうはハード面というか、建物を作ってそこを利用してもらう人たちのための仕事をしています。仕事は違っているのですけれども共通していることが1つあって、それはどんな仕事でも新潟市に住んでいる人たちのために仕事をしているということです。自治体の人たちの喜んでくれる顔を見たい、ハード面で学校とか公共施設を作って、最後にはそこを使ってくれる人たちが、より安全安心で楽しめる施設をつくりたいという思いがあるので、私たちは最後、人を見ています。そういう意味で、『こういった仕事をしていくのは、こういったものが市民に求められているから』という所があります。市役所の仕事をするとなぜかのためになる仕事をしていると胸を張って言えるということが、私が13年間働いていて他の仕事をやりたいなと思わなかった理由でもあります。自信を持って仕事ができるって重要なことかなと思いますので、もし興味を持ってもらえる方がいればもうちょっと市役所の仕事を紹介できる場を用意したいと思いますのでよろしくお願ひします。」

**渡邊**「創生学部はできて3年、今度4年目に入るので、なにかこれからはじめて就職活動ということで、本当に先輩がいない中、どうしたらいいのだろうと不安を抱えている学生も多いと思います。今まで遠くから、公務員の世界はどうなっているのだろう、どういう風にお仕事されているのだろう、どう生活されているのだろう、と漠然と見ていたのが、今日お二人にお話を直接うかがうことがで

きて、とても具体的に理解でき、また、自分がこれからどうしていくかの手がかりが得られたのではないかと思います。本当にありがとうございます。最後にお二人から学生たちに、今日のことを踏まえてメッセージをいただくと大変うれしいと思います。一言ずつでよいのでよろしく願います。」

**金子**「今日はありがとうございました。皆さんこれから就職活動をされるということで、今日は市役所の話を見せていただきましたけれど、私は結構特殊な立場で、民間企業を経験してから公務員になりましたという、市役所の中でも特殊な経歴なのかなと思いますけれども、でも最近色々な人が市役所にはいます。今日、私の話を聞いてちょっとでもプラスにしてもらって、試験を受けたり就職活動をするときに役立てていただけたらと思います。今日はありがとうございました。」

**小熊**「今日は貴重なお時間を、私にとってもとても貴重な時間になりました、どうもありがとうございます。私はUターン就職ということで、地元は新潟県なのですが、大学は千葉県にありまして、同級生は皆メーカーに、関東・大都市のメーカーに就職しています。ほとんどが大学院に行くか就職する中で、戻ることにごく悩みました。皆さんも地元に戻ろうかなとか、どこで就職しようかなと悩んでいる方がいらっしやっただので、私が決め手というか、これだけはこののがひとつありまして、今、思いっきり悩めば、候補のうち選ばなかった側の方がよかったかなと思うこともあると思うのですが、そこまでやればきっと後悔はしないと思うのですね。悩むのであれば思いっきり悩んで、聞きに行くなり、周りの人に聞いてみるなりして、やること全部やってその結果として選択肢を選んでほしいと思います。本当に今日、皆さんとお話しできて楽しかったですし、私もこれから業務にこういう皆さんがいることを思いながら建物に向き合えるので、とてもいい時間を過ごすことができました。本当に今日はありがとうございました。」

**渡邊**「ゲストのお二人、お疲れ様でした。この後、もっとたくさんの学生の前でお話されるご予定とのことで、大変な一日だと思います。参加した学生たちは、今日のお話を糧に今後、頑張っていくと思います。ありがとうございました。」

**布施**「本日はどうもありがとうございました。これでキャリアトーク公務員編を終了させていただきます。

お手数ですが、皆さまお手元のアンケートをご記入いただき、退出時にスタッフにお渡しください。本日はご来場いただきありがとうございます。」

**渡邊**「では改めて、ゲストのお二人への感謝の気持ちを、拍手でお伝えしましょう。」  
(一同、拍手)

## 7 参加者アンケートの結果

終了後に、受付の際に手渡しておいた参加者アンケート用紙に記入してもらった。以下、各々の設問に対する、スタッフをも含めた参加者の回答を挙げておきたい。

### ①あなたの将来の仕事やキャリアへの希望や現時点での関心について、支障のない範囲で教えてください。

- 「就職」という言葉が自分事に感じる時期にさしかかってきて、自分の将来について考えている状態です。まだ具体的にこんな仕事につきたい！というのはありません。公務員もいいなあ、もっと知ってみたいなあと思い、参加しました。
- まだ具体的には考えられていないが、空間デザインやまちづくりに関心がある。公務員という選択肢もあるが、民間でも自分のやりたいことができる所を探している段階。
- 民間か公務員かもまだ決めきれておらず、これから色々触れてみてもっと考えていきたいと思っています。
- 地元（富山）に帰って就職したい。今の所は公務員志望。
- 公務員は選択肢の1つとしてあるけれど、明確には決まっていない。
- 基本的には民間を考えている。
- 国家一般職又は地方上級公務員、地方の交通問題、公共施設マネジメント
- 現時点では公務員、特に新潟市の職員に関心があります。業績をあげてキャリアを積むような仕事よりは、対価を気にせず人のために働けるような仕事をしたいです。
- 民間企業への就職を考えていて、公務員に関してはあまり視野に入れていない。民間はコンサルタントやイベントの企業に興味がある。
- IT系の職業に興味がある。
- 人と関わりのある対人の仕事に就きたいと考えています。具体的な職種に関してはこれから検討

していきたいと思います。

- 山形県庁で働きたい、地域活性化に貢献したい、地元企業と連携できるように経済を学ぶ

### ②あなたはこのイベントに何を期待していましたか？

- 公務員の仕事の内容や、やりがい、プライベートとのバランスなどが分かり、自分の就職について考える上で参考になること
- 実際に公務員の方のお話を聞けるということで、自分の知識を増やしたかった。座談会ということで双方向のコミュニケーションを期待した。
- 公務員の方がどんな仕事をしているのか、何も知らなかったの、働く人の声聞きたかった。
- 公務員のリアルを知ること。
- 公務員がどのような仕事をしているかなど初歩的なことですが、そういうことを知ること。
- 若手のうちの公務員の実際の仕事はどのようなことをやっているか。
- 主な仕事内容、やりがい、今後の展望
- 今まさに興味を持っている新潟市の職員の方々から直接お話を聞けるということで、講演会のような場所では聞けないようなリアルなお話を聞けたらと思っていました。
- 社会人全体に応用出来る考え方の獲得や、キャリア選択をする上で重要なことを知ること。
- 自分が今まで興味なかったことについて知ること。
- 公務員の方がどのような理由で現在の仕事を選び、今までにどのような仕事してきたのか現場の声を聞きたいと思っていました。また、スタッフとしてイベントを運営する側にとって何が重要なのか学びたいと思いました。
- より具体的な公務員に対するイメージを掴む、ネットでは分からない生の声を聴く、今後の学修計画をより明確にする

### ③参加してみて、特に印象に残ったこと

- 市役所は色々なことができる、市の職員は市民のために働くことができる、育休などの制度はしっかりしている
- 「今公務員として働いている方」の実感を聞いたのがよかった。民間で勤めた経験や、技術職ならではの、公務員以外の選択肢もきくことができた。
- 公務員はかたいイメージがあったけど、幅広く

色々な仕事できて、楽しそうだった。

- いつでも誰かのために働いているのが公務員だという言葉がとても印象に残った。
- 職場がどのような感じなのか、仕事でどんなことをしているのかなど。
- 最初民間に就職しても公務員になることができるということ。
- 公務員のやりがい、必要な能力などはとても参考になりました。
- 公務員という立場で働く上での課題としてお二人ともおっしゃっていたのが「コスト意識」でした。その業務の性質上どうしてもおろそかになってしまうが、改善の余地はある、とのことでした。もし私が公務員という立場になったら、このお話を思い出して「コスト意識」を持ち続けたいと思います。
- 座談会で、小熊さんが「迷って決めたことは後悔することもあると思うけど、一生懸命悩むことが大切。」とおっしゃっていたのが印象に残った。一生懸命悩んでも後悔は残ってしまうという部分でキャリア選択の難しさを感じた。
- 公務員の中でも技術系の職業があることを知って、その雰囲気具体的にわかった。
- 公務員の中でも民間からの採用や専門職といった特殊な経歴を持つ方のお話を聞くことにより公務員という仕事はどのようなものなのか知ることができました。公務員におけるコスト意識が低いという点は民間の企業との相違点であると感じ印象的でした。
- やはり、コストに対する意識が高まっている。休暇は自分が思ったよりも自由度が高い。民間から公務員になってもそこまで苦になるわけではない。県庁と市役所の違いは、実際現場の方たちは気にしていない。

### ④気づいたこと・考えたこと、今後に向けて、もっと知りたいことは何ですか？

- おふたりとも、仕事のことを楽しそうに語っていらっしやと思った。
- 身につけておくべきことは何か、また、大学生のうち経験しておくべきことは何かを知りたい。
- 他の職種のこと調べて、今から将来についてもっと考えようと思った。公務員への興味が深まりました。
- 民間に比べて公務員は幅広く色々なことができ



るのは、自分に向いているような気がした。

- 自分の中の将来就きたい仕事として公務員という選択肢がより明確になった。
- 民間志望でも公務員の人の話をきくことは大切であると感じた。
- 今回は地方公務員をお呼びしての座談会でしたが、次があれば国家の行政職の方にもお聞きしたい
- 公務員になるためのアドバイスをもっと聞きたい。
- ゲストの方がそれぞれ公務員を志望するに至った過程をもっと詳しく知りたいと思った。特に小熊さんに関して、技術職は民間が主流な中でどうして公務員なのかが気になった。
- 技術系の職業について
- スタッフとしてより良いイベント作り上げるためには何が大切なのか考える良い機会となりました。参加者に満足してもらえることを前提にイベントに関わったすべての人が居心地のいい雰囲気作りが重要であると思いました。
- やはり、自分は公務員になりたいと改めて感じた。仕事内容、職場の環境や休暇について自分の理想に合っていると感じた。県庁と市役所の違いについて、もう少し話を聞きたかった。民間から公務員になるのにそこまで不安を感じないのは少し意外だった。

#### ⑤その他、感想など自由に書いてください。

- 公務員の方のリアルな声を聞くことができ、よかったと思う。今後、自分がどうしたいのか考える、きっかけになった。
- 座談会の形式だったことや、会場全体の雰囲気があまり堅くなかったことから質問しやすくてよかった。人が多いとなかなか聞きにくいようなことも、この人数だから聞けたかなと感じた。グループが2つに分かれていたが、もう1つのグループでのお話の内容を知りたい！！
- 貴重な機会を設けて下さりありがとうございます。キャリアを考えるきっかけになりました。
- 公務員は最初の10年ほど自分がやりたいことを見極める期間があると知り、今後の参考になった。
- 今後このようなイベントがあれば参加したいと思った。運営側もやってみたいと感じた。
- 普段話をするのでできない人の話をきくことができよかったです。

- 参加人数が少ないようにも感じたが、今回ぐらいの人数のほうが質問できる回数が多くなったためよかったと思う。
- 今回、キャリアイベントを運営するのも、参加するのも初めてでした。正直、運営したと言える程の貢献はできませんでしたが、運営メンバーの皆さんのやり取りを見ていて、こういったイベントがどれだけの苦労の下で成り立っているかが分かりました。参加者としてもとても貴重なお話を聞くことができました。ありがとうございました。
- ゲストの方がどちらも気さくで質問しやすかった。私はこのイベントは非常にいいイベントだと思っただけに、人数を集めきれなかったことになおさら後悔が残った。今回は公務員ということで、対象が絞りやすかったが、もし民間でイベントを開催する場合は、範囲が広いのでどんなゲストに来てほしいか絞るのが難しそうだった。
- 今まで全く考えたこともなかったことだったので新鮮でおもしろかったです。
- また、機会があれば運営側としてイベントに携わりたいと思いました。
- 座談会で、小さくまとまってお話を聞けたため、非常に細かい所まで、話を聞くことが出来たと思う。しかし、個人的にはもう少しお話ししたかった。ここで聞いたことを今後の学修計画の糧にしていきたい。

#### 8 イベント記録へのコメント

新潟大学キャリア創生研究会の発足とほぼ同時期にはじまった学生主体のキャリアイベントも今回で4回目を迎えた。当該イベントは、その回ごと、主催する学生の興味関心に応じて、その趣向は異なっているが、今回はイベントの企画から事前準備、当日の運営に至るまで、ほぼ全ての活動が学生自身の手によって担われたことは特筆すべき点である。今回のイベント実践は、過去3回のイベントにおける「先輩の経験」「成功・失敗談」を踏まえ、悪戦苦闘しながらも自分たちなりの工夫によって成し遂げたものである。イベント実践を終えた学生たちのコメントから、実践知の形成において、自立した学びの伝達、自分たちの素朴な興味関心、およびそこから目的意識、といったものが非常に重要であることが理解される。今回の経験をもとに、今後ますます自発的に自らの学びを深化させていくであろう学生たちは、果たしていかなる力を身

に付け、どんなところにたどり着くのか。これからもその成長を楽しみに見守っていきたい。

## 9 おわりに代えて

本稿は、新潟大学キャリア創生研究会のバックアップにより実現した第4回の学生主体キャリアイベントの実践報告である。原稿の大半は、メインメンバー4人によるイベント概要の整理、文字おこし、アンケート結果の取りまとめという実務作業に依拠したものである。特に、インタビューから閉会に至るプロセスの具体的な内容報告は、膨大な音声データの粘り強い地道な文字おこし作業によって実現した。本イベント開催に関わっては、これらメインメンバーとともに、イベ

ント準備から当日の円滑な運営に至るまでのプロセスに参加したサブメンバーの前澤優花さん、奥村夏子さん、青木悠飛さんのご尽力に感謝する。

末筆ながら、公務でご多忙の折、ゲストとして参加して下さった新潟市職員の金子良平さん、小熊美紗さん、そして媒介となってお力を貸して下さった新潟市人事委員会事務局の目黒勝さんに、感謝申し上げます。

### 謝辞

本研究は、科学研究費挑戦的研究（萌芽）「初年次専門（職）教育と生涯キャリアデザインとの接合点の構築に関する実践開発的研究」（代表者：渡邊洋子、課題番号17K18628）の助成を得たものである。